

皆さん、おはようございます。

今日この「世界水の日」の行事で、こんなにたくさんの若々しい、生きいきとした顔を見ますと、私も未来への希望がわいてきて、うれしく思います。

私は、今日、国際ロータリーを代表してここに来ました。国際ロータリーは、私が長い間、自分の人生の一部としてきた団体です。私が初めてロータリーに入会したのは、皆さんが生まれる前、ひょっとしたら皆さんのご両親が生まれる前かもしれません。ロータリーには、世界で 120 万人の「ロータリアン」と呼ばれる男女両方の会員がいます。ロータリアンは毎週、各地で集まって、交流して、力を合わせて人を助ける活動をする人たちです。

ロータリアンは、世界で 200 の国々と地域に住んでいて、何十もの違った言語を話し、あらゆる分野やビジネスで働いています。

ロータリアンには、「超我の奉仕」と呼ばれる共通した理念があります。それは、簡単に言えば、「自我を超えて人のために尽くす」という意味の言葉です。

「超我の奉仕」はとても昔からある標語です。ロータリーそのものが、先月で 106 周年を迎えたとても歴史のある団体で、その間にこの「超我の奉仕」という標語は、少しずつ違った意味で捉えられてきました。

私にとって、「超我の奉仕」はひとつの生き方です。だれでも、人は自分一人では生きていけないんだということです。家庭でも、学校でも、会社でも、それぞれの国でも、私たちは皆、人生をほかの人と分かち合いながら生きているのです。

自分の人生を人と分かち合いたいと思うのは、人間としてごく自然なことです。嬉しいときも、悲しいときも、うまく行っているときも、うまく行かないときも、身の回りに誰かがいてほしいと思うのはごく自然なことです。そして、そういうときに、誰かがそばにいてほしいと願うと同時に、私たち自身も誰かのそばにいてあげたいと思うものです。

幸せになるために一番大切なのは、お金ではありません。幸せになるには、人のために何かをし、人を助け、人を幸せにしてあげなければなりません。ロータリーの「超我の奉仕」というのは、自分のことを考える前に、まず自分の住む地域の人のことを考えると言うこと、自分のことよりも、自分の住んでいる町や村の人たちが何を必要としているのかを、先に考えてあげると言う意味です。

ロータリーの「超我の奉仕」というのは、ただ壁に掛けておく標語ではありません。本当に毎日実践する言葉です。ロータリアンは、この言葉を道しるべとして、皆さんの町や村に住み、町や村の人たちために活動しています。

自分自身よりも、自分の町や村の人たちが必要としているものを優先するには、もちろんその人たちが必要なのは何なのかを知らなければなりません。

今、世界の町や村でいろいろなものが必要とされていますが、世界で一番必要とされているのは、きれいな水だと思います。

どうして水が一番必要なのでしょう。それは、水は世界どこでもなければならぬものだからです。水なしには、誰も生きていけません。皆さんは知らないかもしれませんが、世界で一人当たりの水の使用量を比べてみると、日本は第4位です。日本人は世界で4番目にたくさん水を使っている国民なんです。日本の人は毎日、374リットルも水を使っています。アメリカでは、もっと多くて、575リットルです。そのたくさんの水は、どのように使われているのでしょうか。それは、飲み水や、料理やお風呂に使う水のように、よく目に触れるものだけではありません。例えば、トイレや洗濯に使ったり草花にあげる水もあります。畑や、工場や、病院で使われる水もあります。毎年、世界でもっとたくさんの水が必要になっていきます。そして、残されたきれいな水は、どんどん少なくなっていくんです。

世界の貧しい国々では、生活に必要な最低限の水さえ不足しています。例えばバングラデシュでは、一日一人当たり49リットルしか使っていません。カンボジアでは、15リットルです。そして、アフリカのモザンビークでは、毎日たった4リットルしか使いません。

ここで大切なのは、これらの貧しい国々の人たちが、水をどのように使い、それが生活にどんな影響を与えているのかを、私たち一人ひとりが理解することです。

とても貧しい国々では、水洗トイレがありません。ですから、トイレの汚水はそのまま地面にしみこんでいき、飲み水を汚してしまうんです。飲み水は、工場の廃棄物によっても汚されていきます。このような国々では、家の中に水道がある人はあまりいませんから、水を探しに遠くまで歩いて行って、水を汲み、担いで家に持って帰らなくてはなりません。これは重労働ですから、あまりきれいな水でないことが分かっているにもかかわらず、なるべく近くにある水を使います。

このような水を飲むと、いろいろな病気の原因になります。今世界で子どもが死亡する大きな原因のひとつは、水からうつる病気です。信じられないかもしれませんが、今世界できれいな水を飲むことができない人たちが、10億人近くいます。世界の病気の80パーセントは、汚い水が原因で起こるんです。

それだけではありません。このような国々では、お母さんや子どもたちは、水を探すのに忙しくて、子どもが学校に行く時間がありません。子どもたちは、よく病気になってしまうので、勉強も身に入りません。持っているお金は、皆食べつなぐのに使われるので、学校教育には回せません。ですから、きれいな水がない地域の子供たちは、教育もあまり受けられません。

さっき言いましたが、ロータリーでは、ほかの人の役に立つことを目標としています。ロータリアンは、この水の問題に取り組むことで人々の役に立てると考え、世界中で水のプロジェクトに参加しています。

水のプロジェクトにも、いろいろな形があって、なかにはとても簡単なものもあります。例えば、「ライフ・ストロー」という器具があります。この器具は、30センチぐらいの長さのストローの形をしていて、軽くて、一個450円ぐらいのものです。一つの端を飲みたい水につけ、もう一つの端に口をつけて吸い込むと、病気の原因になるばい菌やウイルスをほとんどすべて取り除いてくれて、安全な水が飲めるというものです。

これは素晴らしい発明で、既にたくさんの命を救いました。危機的な状況では、とても役に立つ器具です。しかし、これは一時的な解決法であって、きれいな水の不足という問題には、もっと長い目を見た対応が必要です。

だれでも、人の役に立ちたいと思うなら、まず、その人たちが直面している問題と、その人たちの考え方を理解しなければなりません。また、ほかの人に頼らなければ続けられないような解決法は、長続きしません。一方、自分たちだけで続けられる解決法なら、長続きするでしょう。ですから、問題を解決するには、長い目で見ることが大切です。

この長い目で見るといのが、ロータリーのやり方です。

長い間続いている問題には、長く続けられる解決策が必要だというのが、ロータリーの考え方です。それぞれの問題が、どのようにして起こり、どのような影響があるのかを、しっかり調べます。そして、どの段階で助けてあげるの一番いいのかを考えるんです。

さっきお話した、水の問題にしても、どの場合でも当てはまるような解決策はありません。その場その場で、様々な知恵を絞って取り組んでいかなければならないんです。例えば、きれいな水がないところには、必ず衛生上の問題があります。ですから、水をきれいにしても、その水が汚くなってしまいう仕組みを放っておいては、何にもなりません。ですから、なぜ水が汚くなってしまふのかを理解しないと、水の問題は解決しないということです。

このような水の問題を解決する上で、忘れてならない言葉は、「持続性」、つまり効果が長続きするようにするということです。プロジェクトには、必ず限られた予算がありますから、その予算の中で、どうしたらより多くの人たちに、より大きな効果を、より長い間届けられるかが、プロジェクトの目標になります。これは、たやすいことではありません。今ロータリアンが現在のプロジェクトの内容をどうするかで、これから長い間、皆さんと、皆さんの子どもたちと、その子どもたちの時代まで、影響が及ぶことになります。

皆さんは年は若いかもしれませんが、才能に溢れています。もっと良い社会を目指す皆さんの心と意欲のおかげで、私たちロータリアンはより良い人間になれます。

皆さん、この地球の未来は、私や、私と同じ世代の人たちの手ではなく、皆さんの手の中にあるんです。

私は、ここで皆さんに会って、勇気が湧いてきました。ここで知識を身につけただけでなく、社会をもっと良くしようという意欲を持ち帰っていただけることを期待しています。そして、これから先、皆さんにも「超我の奉仕」の喜びを分かち合っていたいただきたいと願っています。

皆さん、ありがとうございました。